

# 交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

## 第2回 消費者だけでなく酪農家とも“交流”

### 「酪農の素晴らしさを伝えたい」と 思うあなたも仲間

地域交流牧場全国連絡会会長(千葉県八千代市・酪農家) 加茂 太郎

地域交流牧場全国連絡会、略して「交牧連」。漢字ばかりでお堅い組織と思われるかもしれませんが、ネクタイを締め難い顔して、会議…みたいなことは年に一度くらいしかありません。普段の活動は、自分が牧場を営む“地域”で、消費者と“交流”することです。そんな“牧場”の“全国連絡会”なのです。つまり、私たちの愛する酪農という仕事や牛乳、そして何より牛たちのことをたくさんの人に知ってもらおうという、前向きな酪農家や関係者の集まりです。

#### 酪農への理解深めようと出前授業に力

私は千葉県北西部の八千代市で酪農を営んでおり、2021年6月から交牧連の会長を務めています。私自身は同県船橋市で商売をしている家庭の出身で、妻の実家の牧場に06年に就農した、まだまだベテランとはいえない若輩者です。前職が学校教員だった縁もあり、就農当初から小学校への出前授業



出前授業で「牛乳好きな人？」と問い掛ける筆者

などに取り組む中で交牧連の存在を知り、加入しました。会長といっても全体の調整役のような仕事が主です。普段は自分の地域で、消費者や子どもたちの交流に力を入れている普通の酪農家です。

牧場ではつなぎ飼いで約165頭(経産110、育成55)を飼養。後継牛は全て自家産、自家育成で、年間約1,100tの生乳を出荷しています。飼料畑8.5haでトウモロコシを生産する他、水稲農家との連携でWCS(ホールクロップサイレージ)用イネを10ha生産しています。

八千代市はいわゆるベッドタウンです。人口は20万人ほどですが、千葉市や船橋市といった県内有数の商業都市に隣接し、東京都心部にも1時間弱で行くことができます。牧場や飼料畑の周囲に民家があるため、音やにおいなどによりかなり気を使いながら作業しています。牧場周辺に住む人以外は市内に酪農牧場があることすら知らない新規居住者が多い地域でもあります。



感染症対策を実施の上で搾乳体験も行っている



築50年の第1牧場タイストール牛舎。今年、第2牧場を開設した

こうした環境で営農しているので、地域の皆さんに少しでも酪農や牛のことを知ってもらいたいと、学校に牛を連れて行く体験授業「モーモースクール」や、酪農家が単身で学校に出向く「出前授業」を実施しています。出前授業の際は、餌のサンプルの他、牛の胃について解説するパネルや牛の等身大布幕などを用意し、子どもたちに牛や酪農に興味を持ち、理解を深めてもらおうと心掛けています。これらのツールは酪農教育ファームの牧場認証を受けた際にもらったものです。授業を受けた子どもたちが牛に親近感を抱きながら成長して、将来、酪農仲間になってくれたらうれしいなと日々妄想しています(笑)。

#### 戸数減で農家寄り合い減る中、 若手の交流の場を提供

当牧場の先代である義父や地域の先輩に話を聞くと、数十年前には市内に100戸を超える牧場があり、ちょっとした行事の際には酪農家が集まって牛談義を肴(さかな)に一杯やっていたそうです。酪農家同士の情報交換はもちろん、問題が起きたときには一緒に解決に動くことが当たり前だったといいます。

戸数が減った今ではなかなか同じようにはできず、酪農家同士の横のつながりも薄れてきているように感じます。皆さんの地域ではいかがでしょうか？ 私の息子は後継者として就農する予定で、現在削蹄師の親方の下で修業中ですが、彼が就農する近い将来、同年代の仲間とのつながりが持てず、酪農家として孤立してしまわないかが親としての一番の心配事です。

交牧連にはクラブ・ユースという若手が集まる事業があります。あまり堅くならず、若い世代の後継者や従業員同士のつながりをつくって盛り上げていこうというのが狙いです。今はインターネットなどを通じて離れた場所でも簡単にコミュニケーションを取

れるので、大ざっぱに「土台の事業はつくっておくから、あとは若い人で自由に考えてね!」という感じで若手に委ねています。

最近ではコロナ禍で思うように行事を開催できませんが、以前は年に何度か研修会を実施し、自分の牧場を離れて楽しく学び、情報交換をしていました。酪農家は減っていますが、新しい時代を担う若い人たちに交流の場を提供できているのは、交牧連のとても良いところだと思っています。

#### これからの酪農家には視野の広さが必要

交牧連にはさまざまな酪農家や関係者が加入しています。家族経営も法人経営もあり、6次産業化に取り組んで店舗を運営する人もいます。今は搾乳だけの牧場だけど、いつか自前の牛乳でジェラートショップを営みたいと、毎年開催する研修会へ熱心に参加する人もいます。若い酪農家の話を聞くと元気になるからと話すベテラン酪農家、観光牧場や畜産系の学校なども加入しています。

「忙しくて消費者交流はできないから、交牧連には入れない」とは思わないでください。「牛や牛乳、何より酪農の素晴らしさを知ってもらうことって大切だよ」と思っているのなら、もう仲間です。たくさんのイベントや研修会(詳細はホームページを参照してください)に参加するだけでも世界が広がります。入会金は要りません!年会費は掛かりますが…(笑)。

酪農家が新しい時代を生き残るには視野の広さが絶対に必要だと思います。交牧連は、そんな酪農家になるための助けになると私は確信しています。



**プロフィール**  
かも たらう  
1966年生まれ、千葉県船橋市出身。会社経営者の家庭に生まれ、89年から16年間、船橋市内の小学校の教員を務める。2006年に妻の治美さんの実家に就農。08年に(株)加茂牧場を設立し代表となる。22年3月、スタッフのキャリアアップの場を提供するため第2牧場を開設した。交牧連には10年に加入。15年理事、17年監事、19年副会長を経て、21年6月から現職

#### 交牧連に関する問い合わせ先

(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局  
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295  
メール: koubokuren@churaku.jp  
ホームページ: <https://www.dairy-farm.jp/>  
フェイスブック: <https://www.facebook.com/koubokuren> [交牧連 HP]

